

互いのよさを認め合い、ともに高め合うことで一人一人の居場所が大切にされる学級づくり

北海道旭川市立東光小学校 教諭 上森 慎詞

小学校3年 道徳  
時々迷々

番組の特徴

日常生活の中で起こりうる問題を題材にして、その問題に直面している子どもの心の迷いを焦点化し、片桐はいり演じる「迷々」が主人公に揺さぶりをかけ、その後は視聴者自身が考える構成になっている。

研究の概要

善悪の判断や、人間関係をよりよくすることを子どもたちが進んで考え、実践につなげていく力を育てたいと願い、年間の学校行事等と関連させ、「時々迷々」を活用した。学習発表会前に授業を設定し、「自分のよさ」について考えさせた。「よさ」が多様であることに気づき、そのよさを伸ばし、行事において自分のよさを生かして協力していきたいという思いをもたせることを期待した。

授業デザイン（1 単位授業時間）

目標：自分のよさに気づき、そこを長所として伸ばしていこうとする思いを育てる。

導入	自分のよさについて考え、発表する。
番組視聴	「ホメカード」
課題把握	「チエちゃんは、どんなよさに気付けたのでしょうか。」
協働解決	グループで話し合い、どんなよさに気付けたかカードに書いて発表する。
個人思考	もう一度、自分のよさについて考え、ワークシートに記入する。
	友達のよさについて考え、ホメカードに書く。
まとめ	本時の学びを振り返る

番組や関連動画クリップの活用意図

新たな価値に気付く

主人公チエが自分のよさに気付いていく過程を視聴することで、「よさ」の新たな価値に気付く。

自己を見つめなおす

主人公に共感して視聴することで、自己のよさについて改めて考える。

思考の可視化にかかわる教師の工夫

小グループでの話し合い活動

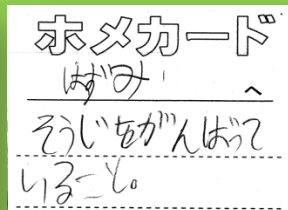
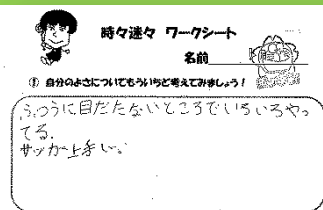
視聴のポイントを示し、視聴後、すぐにグループでの話し合いに入ることで、対話の中で考えを整理することができる。

話し合った内容をカードに書いて掲示

話し合われたことを短い文にまとめてカードに記入し、黒板に掲示して共有する。

ホメカードを書いて渡す

ホメカードによる他者からの評価を得ることで、自己のよさを再認識する。



生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- すごいことじゃなくてもよさがあったことが分かった。
- ホメカードは、はずかしかったけど、もらうとうれしい気持ちになった。

同僚の評価

- 15分は長いですが、視聴する前に、視聴するポイントを説明して見せていたので、すぐに本題に入ることができていた。
- 小グループではなく、全体での意見交流で終わらせるとカードを書く時間をもっととることができた。
- 話し合いをまとめてカードに書くことは難しい様子だった。
- 番組の内容が分かりやすく、実際の活動につなげられるところがいい。

実践を終えて

導入での発表は、運動や学習に関する「よさ」が多かったが、視聴後には、特別ではないことや他者への気遣いなど、「よさ」の多様性に気付いて自己を見直している子どもが多かった。話し合いを整理してカードに書くことに時間を多くかけたため、ホメカードの受け渡しを十分にすることができなかった。年間指導計画に番組視聴を位置付け、行事等との関連をもたせることができた。次年度も続けて取り組みたい。